

年の終わりに
一歩きながら考える一

開倫塾
塾長 林 明夫

1. はじめに

①ダーバンで考える

「アフリカの問題は、モスキート（蚊）と、コラープション（汚職）と、人口爆発ですか」私
がたずねると、まわりにいた人たちが笑いながら「その通り」と答えた。

②ドイツに本部のある非営利の民間組織「トラスパランシー・インターナショナル」が主催する「第
九回国際アンティ・コラープション(汚職撲滅)カンファランス(会議)」に出席のため10月9日(土)
から17日(日)まで南アフリカ共和国の第3の都会ダーバンに出かけたときのことだ。3月にバン
コクの国際会議に行った折に、主催者の副会長であるマレーシアの方から、大事な会だから是非来
てくれと出席を要請されたからだ。

③なるほど、行ってみると、1600名も世界各国から参加者があるのに、日本人は私以外一人もい
なかった。国際連合の副事務総長や、世界銀行の総裁、IMFやFBI、国際刑事警察機構の幹部、
アフリカ各地の大統領などが勢ぞろいしていた。世界各国の最高裁判所の裁判官や検察庁の長官、
中央銀行の総裁や大蔵大臣のような人もたくさん来ていた。

④要は、日本をはじめとする国々が、国連や世界銀行・IMFなどを通じて開発途上の国々や経済
困難な国々に資金の援助をしても、「汚職や不正」のために何割かのお金が途中でなくなってし
まうことが多い。そこで、国際機関と各国が協力をして「汚職や不正」をなくすために、世界大
会を2年ごとに開こうというのが、この国際会議のねらいのようだ。

「日本は世界で最も多くのお金を拠出しているのに、このような会には出席する人がほとんど
いない。お金を出すだけでなく、お金を出した分、どうしたらよいかをいっしょに考えてほしい。」
このように100人以上の各国代表者から真剣な顔で言われた。

⑤2年後は、チェコのプラハで、4年後は韓国のソウルでこの大会が開かれるという。各国政府は、
この大会を誘致することで、その国から「汚職や不正」を撲滅するきっかけをつくらうとしてい
るものと思われる。体調がすぐれないためと欠席したが、南アフリカでのこの大会は前大統領の
マンデラ氏の要請によるものであった。

⑥6日間にわたって、朝から晩まで「汚職や不正の撲滅」の会議に出させてもらった。市民団体や
芸術家の人たちの協力により歌やおどり、劇によるプレゼンテーションも、感銘深かった。

2. 歩きながら考える

①上海で考える

「大学なのになぜ一種類の教科書しかないのですか」という私の問いかけに「先生ごとに使う教科書や教材がちがったら、学習効果が上がらないからです」という答えがすぐに返ってきた。上海外国語大学の本屋さんでの会話だ。

②ダーバンから帰って4日後の10月21日(日)から24日(日)までの4日間、中国は上海に教育事情の視察のために出かけた。日本貿易振興会(ジェトロ)に所長さんを訪ねたり、前所長さんの事務所や三和総合研究所の上海事務所をたずね、日本企業がどのように事業展開をしているか教えを受けた。同時に、上海外国語大学の日本語科の科長先生にもお会いし、どのように中国学生が日本語を身につけているかを教えて頂いた。夜は案内して下さった方が通っている大学の法学部の授業を見せてもらった。すべてセッティングは、高井伸夫法律事務所の上海事務所の方々がして下さいだったので、非常に手際がよく、又、効率的だった。

③どこが「社会主義か」と、ほとんど理解できないほど経済の動きが活発なのが上海だ。社会人も勉強は非常に熱心で、一つの学校を終えてしばらくすると、又、もう一つの学校に働きながら通う。「勉強すればするだけ可能性が広がる。勉強することは素晴らしい。勉強をたくさんしたいから働いているのだ。」etc、と何人もの人に言われた。

④ソウルで考える

「韓国のビッグビジネスである5大財閥を解体することは韓国経済に対する影響が大きすぎるため考えられない。ただ、余りにも大きくなりすぎたため、問題も多い。今後はコーポレートガバナンス(企業統治)、トランスパランシー(透明性)、アカウンタビリティ(よく説明できること)などを考えながら、健全な形で会社の経営を行ってほしい。経営の意思決定も、個人の小さな会社のようにやらない方がいい」

⑤ソウルのシーラ・ホテルで開かれた「韓国の大企業(財閥)の改革」と題する50余名の参加者による韓国政府との円卓会議に出席のため、11月3日(水)から5日(金)まで、韓国に出かけた。主催はイギリスの週刊経済雑誌「エコノミスト」。何回も出席の要請があったので、少し疲れ気味だったが、参加させて頂いた。やはり日本人は私一人だけだった。

⑥世界銀行やIMFは、日本をはじめ多くの国からの拠出で各国にお金を出しているため、融資の条件がきびしい。97年の緊急融資の際、5大財閥も本格的に改革すべきだと韓国政府に要求をつきつけたようだ。私のとなりにすわっていたある有名な財閥代表は緊張しきっていた。

⑦2003年には、第11回の国際汚職撲滅会議が2000名規模でソウルで開かれる。金大中大統領はソウル市長を南アフリカのダーバンに派遣して、世界の人たちの前で汚職撲滅の大演説までさせた。私があることを会場の人たちに伝えると、2003年の会合を知らなかった人も多く「金大中大統領は本気だね」と言っていた。

⑧会議の終りに小さなパーティーが開かれたが、余り激しく議論して疲れたせい、残ったのは事務局と私だけだった。

⑨バンコクで考える

「ありとあらゆるものを民営化してはじめてタイの経済がよくなる。法律を整備し、法律の主旨にのっとってこれはやっていけないことと決めることがまず大事だ。自由競争の政策をどんどん取り入れ、国力を強くしよう。その方がはるかに国民の生活も安定する。」

⑩「タイの経済改革－民営化」と題するタイ政府との円卓会議に出席のために、11月10日(水)から13日(土)まで今度はバンコクに出かけた。主催はこれも「エコノミスト」誌。今回は、日本政府からバンコク大使館員が二人出席して、日本人は私を含め三名だった。

⑪ 97年にアジア経済危機の引き金をひいたタイであったが、経済の回復具合は韓国以上に目を見張るものがある。韓国もタイも「一皮むけた」という感じがする。

⑫「民営化イコール、インサイダー取り引き、つまり汚職(コラープション)だとアフリカで言われつけましたが」と私が会場で発言すると、「そうだからこそ、コーポレート・ガバナンス(企業統治)、トランスパランシー(透明性)アカウントビリティ(説明できること)が民営化に必要な不可欠なのです」と大勢がよってたかって、私を説得にかかった。

⑬「河川」や「橋」「上下水道」「高速道路」「郵便」「通信」「教育」「輸送」「医療」「福祉」「年金」などなど、ありとあらゆるものを「役人の手」から「民間の手」に移されなければ、国民は値段の高いサービスを公共料金プラス税金という形で強いられ続ける、と多くの人々からここでも説明されつけた。

⑭「これから3～4年間の民営化でタイの将来が決まる。」と、となりの大蔵省幹部が私にささやいた。まるで、経済危機を利用してタイをガラッと変えようとしているかに感じられた。韓国でも同じ思いがずっとしていた。

3. おわりに－栃木県の将来を考える－

①栃木県は、国会のおかれる特別市「なす市」、宇都宮を中心とする政令指定都市「うつのみや市」、県南の4市10町を合併した令指定都市「とちぎ市」の「三つの市」(人口は各80万人)を目指すべきだ。

②各市が、既存の文化や伝統を大切にしながらも、地域内の連携を徹底的に深めながらデジタル通信を完全に装備した高福祉の街を目指すべきと思う。

③アフリカ大陸では、長い植民地支配から真の独立を目指し、「汚職や不正はもうしません、させません」と大統領自身が決意表明すらしている。一世を風靡した韓国の五大財閥は、ファミリー

企業からの徹底的な脱却と改革とその夢を心の底から目指している。タイでは民営化を切り札に、一からの国づくりを目指し、上海の勤労者は夜も睡眠時間を削って、よりよい生活のため勉強しつづけている。

④「昨日のように今日があって、今日のように明日がある」ことで満足したら明後日は存在しない。「地元のこと」もっと言えば、「自分の生まれた土地のこと」だけ考え「地元」だけにしがみついていると、世の中の大きな流れの中で、ポッカリと空いてしまう穴の中に、自分や自分の会社、自分の生まれた土地（地元）が入ってしまう。

⑤地方分権を限りなくすすめて、全国 3000 の市町村を 1000 にしよう、いや 300 にしようという議論がさかんだ。全国を 300 の市にしようと思ってからどうしようと考えているようだと、泥棒を捕えてからから縄をなうような街づくりしかできず、子孫に申し開きができない。せめて、県南四市十町の連携の強化のために何ができるかくらいは、何年かかけて徹底的に議論し、研究を深めておこうではないか。

ー 11 月 12 日バンコクにて記すー